

平成24（2012）年度

第 2 回 吹田市立博物館協議会 議 事 録

日 時 平成24年11月19日（月） 午前10時～12時

場 所 吹田市立博物館 2階 講座室

出 席 朝田・西村・大元・由谷・一瀬・上谷・瀧川・奥野・広瀬・村田・来間・辻本委員

傍聴者 なし

挨拶

中牧館長

案件（1）事業報告（平成24年度前半～）

○藤井副館長より3・4ページの年度別・月別の観覧者集計表について説明（資料参照）

○事務局より24年度前半の事業について報告（資料参照）

○質疑応答

（委員）4月の集計表と特別展の人数がどう関連するのか。たとえば「大庄屋 中西家名品展」の観覧者数2466人は3ページの表のどこにあたるのか。

（副館長）特別展すべて同じですので、「大庄屋 中西家名品展」を例に説明します。5ページにある2466人は4月28日から7月1日までの合計です。4月28日から4月30日の2日間は、4月合計の1506人の中に含まれ、ほんの一部です。5月6月はそのまま「大庄屋 中西家名品展」の観覧者数で、7月は1日だけが加わっています。4ページの下に各展覧会の内訳を表にしています。

（委員）入館者総数というのは、展覧会以外のものも含まれているのか。

（副館長）講座等受講者数というのは展覧会に絡んだイベントが中心ですが、それ以外におこなった事業の参加者あるいは特別利用の方等も含まれています。

（委員）観覧者数と講座等受講者数は逆転できないのか。博物館というのは、展覧会を知っていただくのが基本ではないのか。

（副館長）当館については、講座等受講者数がここ数年かなりの比率を占めているので、観覧者数をもう少し増やしていくべきと考えています。ただ、観覧していただくために、まず博物館に来ていただくことが第一と考え、興味深い催事やって展示室にも足を運んでいただくという考えで事業を展開しています。委員のご指摘のとおり基本は展示をご覧いただくことだと思うので、たとえば常設展示で資料を「さわる」という方法を取り入れた展示解説を行ったりして観覧者数が増えれば、催事の数を減らすかどうかは別にして、負担を減らし調査研究に力をさいていけるような展開にしていけるかと考えています。残念ながら、まだそのような展開にはなっていないという現状です。

（委員）「むかしのくらしと学校」は、内容的に色々変えていくのがいいのではないか。シリーズとして大きなテーマがあるのだろうが、展覧会のテーマは変えていく方が、見る側にとっていいのではないか。そういう意味で中身を検討した方がいいと思うが。

（議長）4ページの集計表では、5、6月のイベント系が減少しているが、落ち込みの原因は何か。

（事務局）「大庄屋 中西家名品展」のイベントに関しては、まず定員制のイベントが多かったことが減少の要因にあげられます。また、講演会については少々マイナーなテーマで行ったものがあったということもあり、イベント内容についてはもう一工夫必要でした。

（委員）20周年のシンポジウムを11月15日実施と聞いていたが、案内がなかった。大々的に広報すべきでなかったか。また、市民実行委員会との関係について、吹田市立博物館の場合は、その力を積極的に取り入れて市民の博物館をめざしているのは素晴らしいし大きな特徴になっていると思う。そして、「さわる」展の時にボランティアの方々に事前に懇談会を持って意見を伺うということがあり、それは素晴らしいことだと思うが、点訳、翻訳ボランティアの活動紹介のようなイベントがあり、これは果たして博物館でやるイベントかなと引っかかっている。市内でこういうサークルが活動しているということを紹介するという意味では意義があるが。

ニュータウン展の初日に来て残念だったのは、おそらく市民実行委員の方がこういうイベントを

ぜひやりたいということだったと思うが、担当学芸員の講演というようなものがなくて、苦勞して資料を集めていたのを知っていたので、できれば担当学芸員の裏話、展示をつくっていった話をぜひ聞きたかった。市民実行委員のイベントを優先させた結果なくなったのかなと考えたりしました。市民実行委員会との関係についてどう考えどのようにしていこうとしているのかをお聞きしたい。

(副館長) 20周年のシンポジウムの件ですが、ご指摘のように広報がてうすであったのは事実です。

実際にどのように行ったかといいますと、吹田の市報、毎日新聞、ホームページ、さらにはちらしをデータで各館(50館)に送る、吹田市内の主要な施設にはちらしを配付ということを行いました。予算がない中で、一応各展覧会とほぼ同じくらいの広報はしましたが、浸透していなかったのはご指摘の通りです。

市民実行委員会については、当館の使命の一つに市民参画があり、企画展で市民と協働した方がより有効と考えられる展覧会については、その手法を取り入れています。基本的には、日頃の市民の皆さんの活動をなるべく取り入れて自己実現していただくこととなりますが、もちろん100%おまかせというようには考えていません。博物館の担当学芸員が中心になって展覧会をコーディネートする中で、講座、講演会等のイベントを行うのがふさわしいと考えていますが、さわる展のわくわく体験とニュータウン展の講演会につきましては、担当の方から説明します。

(事務局) さわる展につきましては、展示を行う前に皆さんの意見を取り入れていくために、イベントとか内容について相談させていただきました。目の見えない方や体の不自由な方に普段から接しておられる方のご意見を伺うことで、私たちとは違った視点が見られるのではないかと考えています。また、関心のある人ない人いろいろいらっしゃると思うんですけど、全然そういうことに接していなかった人に知ってもらうという意味で、啓発イベントがあってもいいのではないかと私は思っておりますが、今のご意見も踏まえて次年度以降検討していきたいと思っております。今回のさわる展では、最後の広瀬先生の講演会が台風のために中止になったのが残念でした。

(事務局) 市民企画のもので博物館でやることかどうかということと私自身の講演会講座がなかったという二点についてですが、博物館に市民の方に公募で入っていただいて、さわる展よりつつこんだ形で実行委員会を作って、展示も催事も広報まで企画していただくということが基本ベースにありますので、学芸員がコーディネーター的な役まわりになってくるのかなというのがあります。博物館は市民の要望にあった活動を展開しなければいけないのですが、ただそれをそのまま展開すると、博物館でやることかというようなご意見が出てくるのも事実かと思っております。そのあたり今後うまくコーディネートしていければいいのかなと思っております。私自身の講演会についても、実行委員会のみなさんと話をしておかねばならなかったと反省しております。

(議長) 展示会とかが多すぎるのではないかと。それで広報もルーチンになりすぎているという気がしますが。集中的に展示に向けての関連イベントとか広報がしづらいのか。それと日常的な部分でのイベント活動や博物館のベースになるような市民向けイベントと同時並行していく状態になっていると思うが。他の博物館だとどちらかさぼったりしてうまくつじつまを合わせるところがあるが、それからいくと学芸員の稼働率はどんなものなのか、自転車操業で頭を冷やして考えるひまがあるのかないのか、まだ余力があるのか確認したい。

(副館長) 正直言うと余力はありません。学芸員の数も減っていますし、事業は増えていますので自転車操業状態であることは否めないと思っております。一般的なものと特別展絡みのものというお話でしたが、展覧会やイベントが増えていった経緯の中で、なるべく展覧会に絡んでやっていこうということで、今そういう状況にあるということです。先ほど中西家展のイベントが減った、講演会の人数が少なかったという説明をしました。講演会には、一般的には大きなテーマ、興味深いテーマでやるとたくさんお越しいただくのですが、吹田に限定したような中身の話になるとどうしても少なくなってしまう。中西家展では、吹田の歴史を再認識してしていただくとともに吹田市における中西家の位置づけをおさえていくという地域の博物館としての役割を純粋に追っていった講演会を実施したところ、数が少なくなったということではないかと考えています。これはいたしかゆしのところがありますが、どちらかをとるということではなくてどちらも大事ではないかと思っております。ですから、同じパターンでずっとやるのではなくて、色々なことを展開していけば観覧者が増えて、イベントの比率も下がっていくのではないかと考えております。

(委員) 入館者数とイベントのバランスという話だが、がんばっておられるなと思った一つは、今までこの博物館では考えられなかったような食イベントを2回やっていることだ。人が来にくい地形にある中で、展示物だけにこだわりすぎて人をどれだけよんでくれるか考えると、食イベントという

企画は大変いいかと思う。博物館でそういうことがいいかどうかという問題もあろうかと思うが、人が来なかったらどんない催しをやっても意味がないと思う。民博も場所の問題があって、あれだけの建物で、あれだけの収蔵物があるのにあれだけの動員しかない。日本の国の財産としてものすごいものがあるのもったいない。もし東京にあればすごいことになったと思うんですけど。館長と話をする、シャトルバス出してくれないとか、民博と阪大の間に公道をかけてくれないかと働きかけをしているんですけど、やってもらえないということで苦労なさっているが、今現代の作家の作品もよく出したりしている。この館でも古いものばかり並べなくても、現代の作家の展覧会も貸館にとまではいわないが、そういうこともおもしろいのではないか。子どもを集めるようなことで、私、今年3月に万博会場を借りて交通博をやったが、二日間で5万人くらい来まして、子どもがものすごく多かった。何をやったかという、唯一残っている鉄鋼館の中でプラレールとかやった。あそこにぎっちり人が入って、5時になっても終わってくれなくて難儀するようなことになった。だから、子どもを対象にしたことやプラレールもここでやってもおかしくないし、ここで遊びができるようなことも考えるのもいいと思う。むちゃくちゃ幅をひろげるのは異議のある方もおられると思うが、とりあえず、たくさんの人に来てもらようなものを考えていく方が、この館にとって意義があるし、一に認めてもらえることになる。これ以上仕事を増やすのは大変だが。以前銀行のロビーで出前をやられていたが、いくらでも仲は取りもつし、メイシアターの展示室を使うことも考えられる。だから、あまりここで閉じこもってものを考えると、人が来にくいし、来てもらおうと思ったら、かなり思い切ったイベントをした方がいい。入館者数にこだわらないんだ、物集めておいて来たい人だけ来たらいいという方向でいくのがいいのか、にぎやかとか折角大きなお金をかけてこれだけの建物を作ったんだから、価値のあるものになるためには人に来てもらうように考えてみるのもいいんじゃないかと思う。手前みそになるが、昔吹田に産業展というのがあった。来年で30年になるが、一週間やって4000人しか来なかったんで、2回目にやめたらどうかという話がでた。3回目から、私させてもらって、産業フェアにした。祭りに。そうすると2日間で約7万人来ました。物も売るし、食べさせるし、よその町との交流もしている。吹田スイーツを製品化しようしたり友好都市7つも全部来てもらって、展示、物品販売もしていただいた。学芸員の方にそういうことをしてというのは無理とは思いますが、いくらでも広げていけるので博物館としては硬くなりすぎたんじゃあないか。イベント性をもっともっと増やしていけばいいんじゃないかとあえて提案したい。

(副館長) その辺のところは、費用対効果とよくいわれるところでして、どの博物館でも苦労していると思います。繰り返しになるが、当館のスタンスとしては、両方やらしていただいているつもりで、これからもこの方向は変わらないと思います。同じことの繰り返しではなく、改善すべきは改善し、なるべく博物館らしいところも残しつつ、これからの博物館像を追究し運営していけたらと考えています。

(議長) 教育的な側面で何かないか。

(委員) 前にも言ったが、小学校には連絡をして来てもらうようにしているのか。

(副館長) 小学校3年生への展覧会は冬にやっていますが、それは全校に来ていただくということで、一部出前授業もあります。ほぼ全ての学校に参加していただくというように成果は出ております。

(委員) 博物館は色々な方が来られますから、小学生と生涯学習をしている方々に分かれる、そこら辺を見極めた上で展覧会や催しをしてこられたのか。

(副館長) 特に年齢層を区切ってやってはいませんが、小学校3年生にはずっと展覧会を行ってきています。中高生については今まで手薄いということで、中学校では、常設展示を生かしながら授業の中で吹田の歴史にふれてもらう活動を検討中で、高校では吹田高校と連携し平成25年度から事業活用が始まります。他の子どもの世代には、夏の展覧会でその層を意識した展示をしていただいています。20～30才台の来館者は少ないですが、今日のペーパーの最後のアンケートのグラフでもわかるようにニュータウン展万博展はニーズが高く、それ以外は高齢者の方々のニーズが高いということで、それなりのバランスがとれていると思います。中牧館長が就任されてから公民館をまわりながらPRしていただいていますし、今後図書館にも広げていきたいと思っています。

案件(2) 事業計画(平成24年度後期～25年度前期事業)

○事務局より 平成24年度後期～25年度前期の事業計画(案)の説明を行う(資料参照)

○質疑応答

(議長) 学校教育の方でご意見があれば。

(委員) 先ほど学校は期待できないということだが、教科にしても学年にしても4月当初に年間計画を立てているので、年度途中で何かを組み込むというのはむしろかくなる。ただ、社会あるいは総合の中で博物館と連携していくことは考えたいと思う。8月21日には館長直々に本校に来ていただき、高博連携に負けないような連携ができないかということで考えている、10月3日には本校の社会科の2名の教員がおじゃまして中博連携の具体方策について話をさせていただいた。それも、やはり今年度中はきびしいが、来年度以降に向けてすすめていきたい。地域の歴史に興味を持つ子は絶対いるはずなので、学芸員の出前授業とかここに訪問するというのも視野に考えていきたい。近隣の中学へ広げていただけたらと思う。

(委員) 小中高校生がこの博物館にどれほど興味を持っているのか、あるいは博物館からどういう風に声かけしているのか知らないが、わが子が小学校3年生の時にここに来て、興味を持って帰ってきたことがあったが、それから広がっていけばいいと思うが、そこで終わってしまうのが現状かなと。私自身博物館の方でイベントをさせていただいたことがあったので、興味がある方の親なのかと思うが、他の方には「博物館ってどこにあるの」であったり、イベントを知っても行こうかなとならなかつたりが一番の問題。博物館はがんばっておられると思うけど、宣伝が足りないのかなと思う。先ほど産業フェアの話がされていたが、イベントにたくさん来るようになったというのは、やはり保護者の中に知っている方が多いし、色々なことがあって、子どもも体感できて、何かが見れてそして食があってということがわかって人が集まるという気がする。ここでもまず場所を知らせるのが第一だが、フェアみたいな形で、何か大きな年間を通してこれは博物館の目玉であるとか、毎年この時期になったら博物館でこういうのやってるよというようなことができれば、それで来館者がふえていけばと思う。

(委員) 17ページの25年度の中に、「くらしと交通展一名神高速開通50年と操車場開設90年を記念して」とあるが、これはやりようによっては1日で万という人が集まるようなものすごいことになる。私が、昨年12月に万博協会から800万予算をもらって、今年3月11日12日にわずか3ヶ月ほどの間でやって、5万人集められた。来年3月23日24日で第2回目をやるが、2日間で10万人集まると思う。参加者からも出展料を集めて2000万円くらいの事業でやる。今吹田の貨物駅ができるのは皆さんご存じだと思う。JR貨物の方は、吹田に迷惑かけるので地域の人々に了承してもらわないとと力を入れているし、全面的に協力してくれると思うし、JR吹田駅も年に2回くらい市民に開放する。うまくやると一日2万人来る。世の中にはテッチャンファンが想像もつかないくらいの人数がいるが、これを刺激するような企画にすれば、ここに入れなくらい大きな事業になると思う。こういうのは一回あてたらはずみがつく。毎年やるかどうかは別として。こちらからお金用意しなくてもJRさんから来てくれる。去年、JR西日本、JR貨物、JR東海、JR四国、関西の私鉄全部来ていただいて、今年はJR九州も来てくれると思うが。JRさんというのは、筋さえ通れば、しかもここは官営の組織ですから好意的に参加していただけたらと思う。博物館で取り上げてうまく展開すると、ものすごいことになると思うので、私の持っているものは全部出すので利用していただいて、ぜひ成功させていただきたい。

(議長) 40万の事業費のイベントとかが吹田は多いので、外にお金をたよるのも手かなと思う。

(館長) 今、委員から心強いお言葉をいただきまして、3月万博で行われる展示も踏まえながら、それを引き継ぐような格好で、秋にJRや高速道路会社と連携をとりながら、大々的に展示会ができればと思います。そういう活動が、いつも目玉になるようなものにつなげていければと思いますので、ぜひともご協力ご支援をよろしくお願いします。

秋季特別展「ニュータウン半世紀展」を観覧

案件(4) 課題討論

○評価報告書について

(副館長) 時間がありませんので、この内容についてはお読みいただくということで、今日お出ししている資料は、委員の皆様へ評価をお願いしたものをそのまま載せております。この評価報告書ですが1月か2月には委員長名でいただけたらと思っていますので、ぜひこれだけは追加をということがありましたら、お知らせ下さい。あと評価方法ですが、22年度は5点満点で各項目を評価していただきましたが、A B C Dというやり方もありますので、どうするのか決めていただくのと、重点項目だけに絞ってという意見も昨年でていましたので、その辺を整理していただけたらと思

ます。

(議長) 今、目を通していただくにはかなりの量なので、持ち帰っていただき、まずはご自分の発言の部分に事実関係の誤認がないかご覧いただき、それ以外のところで追加があれば年内に博物館に届けていただければと思う。28ページから私の要望で、特別展等アンケート集計のグラフを入れていただいている。これもご覧いただけたらと思う。それと5段階評価だが、これは今決めさせていただきます。(挙手で現行のとおりと決定) こういう評価方式について、何か感想でもあれば。

(委員) 設問自体もよくとらえているが、自分がその領域に入っていないので応えにくい。総合的に見た場合、博物館の仕事は大変だと思うし、学芸員の皆さんほんとによくやっていると思う。

(委員) やり方としては基本的にこれでいいかと思う。一応割り当てられた点についてコメントしたが、他の点についてもコメントがあれば書くというのがよい。展示の部分のコメントを求められたが、実際は見えていない展示もあり、資料でしか判断できなかったのが表面的だったと思う。

(委員) 私ははじめてだったが、率直に言って全部にコメントしろと言われると、能力を超えているので、絞っていただいてよかった。割り当てられた部分+自由というのがいい。

(委員) 小学校の代表できているので、先ほどの委員の話も含めてお話をしたい。ご存じのように昨年度小学校、今年度中学校の学習指導要領が本格実施の年になった。吹田市では8月の夏休みも一週間縮まって最終週から二学期が始まっている。学校には様々な依頼があって、厳しいカリキュラムの中で協力しているので受けたくてもなかなか手を挙げられない現実がある。

(委員) 今回分担ということである意味では効率的な形でされたが、できたら複線方式、いわゆるそれぞれ専門分野の方のくわしい点検と一般的なことをお願いしたい。あと、館蔵品をどう生かすかと「さわる展」を吹田市立博物館の特徴として今後もやっていただければと思う。

(委員) 私の事業評価報告は、博物館からいただいた点検項目と博物館だけで、日常的な博物館の活動、学芸員の活動はつぶさに見ていないので、くわしく評価できず表面的になっている。

(委員) 評価資料の分厚さに嫌気がさして、事務局から何度も催促を受けている。出してないのは私だけじゃあないかと気恥ずかしい思いだ。私は専門的に文化財とかを勉強したことはないが、郷土史研究会で博物館を建てるときにがんばったものだから、建った段階でことは終わったということであまり興味を持ってなかったのだが、ただここが元気になって欲しいという思いはたくさんあるのだが、細かいアンケートや内容といわれると、私の基準では判断しにくい、違うところへ顔を真っこんでいる気がする。これに反省してもっと勉強させていただく。

(委員) 全体の評価をするというのは少きついで、絞っていただいて有り難いと思う。事業計画の方で、鉄道の町ということで、10月14日は鉄道記念日になっており、各会社と連携しながら、博物館もその輪に入れればと思っている。模型スペースがあれば関大、阪大、市大に鉄道研究クラブがあるので模型を出してくれといわれればすぐに出してくれるので声をかけるのがよいと思う。

(委員) 遅れて提出しもうしわけないと思っている。一応全体目を通して送らせてもらったのは、資料の保存収集というところでは「今後の計画予定の展覧会に関係する史資料などの重点的な収集活動は必要だと思っているが、対処されているか。」と展示に関しては「展覧会では同様な内容とテーマがあり、十分検討した結果の展示内容・展示名であるのか。」だ。あと同じような項目があるので整理してはどうかと思うがどうか。

(委員) 諸事情があり評価に参加させてもらってないが、全部を見てというのはやはり皆さんの負担になると感じていたし、割り当てということで一見良さそうに見えるが、自分がかくわしくないところに当たったりしたとき、個人への負担も大きいので、一つのこと何人かずつで評価することなら安心できる。そしてどうしても言いたいことがあれば言えるというような幅の広さがあればいい。

(委員) 昨年全部しないといけないと思って全部を読み、知らないことまでわからない中で書いたが、今年のような形で楽になった。ただその人だけにたよらないという方法だと他のところも自分が気のついたところを書くということなので良いと思う。

(副議長) 私の方は、学校教育の部分でかえせるだけかえしていきたいと思う。

(議長) 時間がかかなり超過したが、今日はお持ち帰りいただき、目を通して赤を入れていただく、そして年内にお願いしたいが、分担で少し厳しいというのがあればそれも添えて事務局へもどしていただけると、来年もう少しスムーズに進められ、本来の討論ができ嬉しいと思う。ご協力よろしくお願

いしたい。
これで協議会終わります。